

第4回（仮称）ちよだエコセンター基本構想検討会 議事要旨

【開催概要】

- 1 開催日時
平成 31 年 3 月 25 日（月）16 時 15 分～18 時 15 分
- 2 開催場所
千代田区役所 4 階 教育委員会室
- 3 出席委員（5 名）
会 長 崎田 裕子 ジャーナリスト・環境カウンセラー
NPO 法人 持続可能な社会をつくる元気ネット理事長
NPO 法人 新宿環境活動ネット代表理事
副会長 高口 洋人 早稲田大学理工学術院建築学科 教授
深須 布美子 トリップター 代表
森山 裕之 東京商工会議所千代田支部 不動産分科会副分科会長
株式会社アネシス 代表取締役社長
窪田 憲子 区民
- 4 欠席委員（1 名）
村上 孝憲 一般社団法人大丸有環境共生型まちづくり推進協会 専務理事
- 5 オブザーバー
株式会社エックス都市研究所 橋爪 信弘 外 2 名
- 6 事務局
環境まちづくり部長 保科 彰吾
環境政策課長 夏目 久義
環境政策課 企画調査係長 仲澤 孝夫
環境政策課 事業推進係長 爲房 浩明
環境政策課 エネルギー対策係長 落合 郁真 他

【次 第】

- 1 開 会
- 2 議 題
(仮称)ちよだエコセンター基本構想(素案)について
- 3 その他
- 4 閉 会

【配付資料】

次第

委員名簿

座席表

(資料1) 第3回検討会意見対応表

(資料2) (仮称) ちよだエコセンター基本構想 (素案)

【議事要旨】

[開会]

第3回検討会での意見に対する対応案

◇事務局 (仲澤企画調査係長)

資料1に基づき説明

議題 (仮称) ちよだエコセンター基本構想 (素案) について

◇事務局 (仲澤企画調査係長)

資料2に基づき説明

「はじめに」

◆崎田会長

- ・CO2削減に向けたハード的な施設整備の話が強調されている。区民や事業者の率先した活動を応援する場をつくるといったソフト的な記述も入れた方がよいのでは。

「1 施設整備の背景」(P.1~P.4)

◆崎田会長

- ・事前送付資料と本日配付された資料を見ると、4ページの「環境拠点に関わる区の課題」の箇所「リサイクルの推進」がなくなり、「多様な主体の支援の充実」が追加されている。それ自体は大事なことでありよいが、「リサイクルの推進」は入ってなくても大丈夫か。

◇事務局 (夏目環境政策課長)

- ・事前送付資料にあった「リサイクルの推進」は、主にスペースの問題と解決策についての記述だったため、28ページの「今後の検討課題」に記載場所を移している。

◆窪田委員

- ・「リサイクル」は3R (リデュース・リユース・リサイクル) の中の1つであり、活動としては小さい。「リサイクルの推進」という1つの活動を抜き出した記述よりも、今回のような修正の方が、いろいろな活動を包含できるのでよいと思う。

◆崎田会長

- ・以前はリサイクルという言葉で3R全体を意味していた時期もあったが、最近はずっと3

Rと書くことが多い。構想の中にはリサイクルという言葉が割と出てくるが、「3Rを暮らしに定着させる」という視点や表現の方がよいのではないか。

◆崎田会長

- ・全体的には書いてあると思うが、このエコセンターを運営する人、エコセンターを拠点として活動する人の輪をしっかりと育てていかないといけない。そういったこともどこかに書いておいた方がよいのではないか。

◆高口副会長

- ・4ページの「分散している環境活動の連携強化」にプラットフォームとあるが、この表現だと少しニュアンスが違うか？
- ・「プラットフォーム」という言葉の持つニュアンスが人によって全然違う。ハード的な意味だけでなく、ソフト的な意味も持つので、建物（箱物）だけがプラットフォームだと取られないようにしたほうがいいのかもわからない。

◆崎田会長

- ・「ヒト・モノ・情報を連携させ、パートナーシップを推進する仕組みやプラットフォームが必要です」や「連携協働を推進する（広げる）ような仕組みやプラットフォームが必要です」というような言葉を足すのがいいか。

「2 基本的な考え方」(P.5～P.6)

◆高口副会長

- ・5ページの「基本的な考え方」は、ハード（箱物）的な文章になってしまっている。もう少しソフト的な記述がほしい。最下段の囲みに「見える形で内外にアピールする」とあるが、「世界のトップランナーとしてアピールする」というところまで書いてもいいのではないか。

◆深須委員

- ・最下段の囲みの1行目「環境に関する様々な取組に関心を持ち」とあるが、この「取組」というのは、千代田区の取組だけでなく、背景にある問題点やその他様々なことに関心を持っていただきたいという意味合いが含まれていると思う。「取組」という表現では弱い気がする。

◆高口副会長

- ・区や区民、事業者の取組ではないか。

「3 エコセンターの機能・規模」(P.7～P.21)

◇事務局（仲澤企画調査係長）

- ・ご欠席の村上委員より、9ページ一番下の「独自のZEB認定制度」のところで、「省エネ単独の技術的な制度に限定せず、ウェルネスビルのような発想に広げて検討するのはどうか？」という意見をいただいているので、ご紹介する。

◆崎田会長

- ・ウェルネスビルとはどういうものか、高口副会長ご説明いただけるか。

◆高口副会長

- ・ビルの環境性能だけでなく、例えば、快適性や知的生産性などといったビルの内側、空間の質を評価しましょうという制度。日本だけではなくアメリカなどでも取り組んでいる。

◆崎田会長

- ・「快適性等を評価する仕組みを検討」というような表現を入れるのがいいか。

◇事務局（夏目環境政策課長）

- ・村上委員のご意見は、ZEB だけでなく、他の付加価値も評価していこうという話ではないかと思う。例えば、他の付加価値を評価する制度、あるいは、他の付加価値を発信する制度のように整理させていただければと思う。

◆森山委員

- ・独自の ZEB 認定制度のところはこのまま ZEB に特化させ、ウェルネスビルのような付加価値を評価する仕組みは「支援」の方に組み合わせて取り組むのはどうか。

◆高口副会長

- ・7 ページ上の図のところに「交流の場」とあるが、ただ既存の活動を連携させるために交流するのではなく、その交流の先に何か新しいものを生み出す「共創」が必要である。
- ・新しい何かが生まれたときに「活動の場」で展開できるとよい。

◆崎田会長

- ・今の話は大変重要である。8 ページ「交流の場」の実施メニューの箇所に、「暮らしや事業活動の見直し、新しい取組に関する共創の場」など一言入れるのがよいか。

◆深須委員

- ・これからの時代は、「交流」だけだと弱い。

◆窪田委員

- ・学び、交流、支援が「活動」に結びついていかないと、生活・ライフスタイルは変わっていかない。

◇事務局（夏目環境政策課長）

- ・今の「共創」という話は、「場」よりも一段高い視点の話ではないかと感じた。7 ページに書き込むか、あるいは、6 ページ「目指すべき施設の方向性」に項目を設けるか、検討させていただきたい。

◆高口副会

- ・12 ページ「ZEB 化により期待される効果」で不動産価値が上がるとあるが、ZEB に取り組むと不動産価値が上がるかという、そうではない。あくまでも ZEB ではなく、認証取得のビルがという話である。表現を変えた方がよい。

「4 施設の整備」(P. 22～P. 27)

◇事務局（仲澤企画調査係長）

- ・事前送付した資料では 24 ページの留意事項で「ZEB 化は敷地条件としない」という表現をしていたが、ご欠席の村上委員より、ZEB 化を目指さないというマイナスイメージのニュアンス

があるように思うというご意見をいただいた。本日お配りした資料では、「ZEB 化は整備候補地選定の条件としない」という表現に修正させていただいている。

◆高口副会長

- ・ZEB 化は条件としないというネガティブな表現になっているが、前段では ZEB Ready 以上を目指すということが書かれている。ここも素直に、ZEB Ready 以上を条件にするとすればよいのではないかと。

◆崎田会長

- ・25 ページ「区民参加」とあるが、区民だけでなく、地域の人、事業者、関係者全体の参加をどうコーディネートするかという広い視点があってもいいかなと感じた。
- ・「区民や地域の意向を把握します」とあるが、把握するだけでなく、思いを育てていきたい。

◆高口副会長

- ・いわゆるエンボルプメント、周囲を巻き込んでいくということか。

◆窪田委員

- ・行政、民間、区民、エコセンターの運営を誰が中心になって行うのか。他の人任せで、自分はまだ参加して学びましたで終わるのではなく、主体となって活動してほしい。

◆崎田会長

- ・これだけの施設を運営していくには、区民や事業者の主体的な参加が必要である。

◆高口副会長

- ・私も同じ意見なのだが、「主体的に参加する区民や団体を育てる」または「主体的に参加する区民や団体を支援し連携する」というような表現はどうか。
- ・「民間連携」のところでは、施設的设计・施工及び運営の各段階においてとあるが、この表現だと、途切れ途切れな印象を受ける。これまでも、運営を担う人が設計の段階から参画するとよいという意見があったが、そういった内容を入れた方がよいのでは。

「5 今後の検討課題」(P. 28)

◇事務局（夏目環境政策課長）

- ・このページは、今後、我々区が検討をしていく際の課題を書かせていただいている。

◆高口副会長

- ・表題に「今後の検討課題」とあるが、中身が検討課題になっていない。

◆崎田会長

- ・「今後の検討に向けて」というような感じか。

◆窪田委員

- ・「(1) エコセンターの具体的機能」の一番下の3行にリサイクルセンターのことが書かれているが、20年前にリサイクルセンターをつくったときには、将来的にはエコセンターにつながるものとして期待をしていた。しかし、20年も経過すると、当時求めていたものと中身が変わってきてしまっている。

- ・新しいエコセンターに、リユースショップが必要かどうかという話もあると思うが、既存のリサイクルセンターの機能に引きずられなくてもよいのではないかと思う。

◆崎田会長

- ・既存のリサイクルセンターの機能を活用し、発展させ、リサイクルセンターが目指していた要素をエコセンターの中に入れていくのは必要だが、今やっていることをそのままエコセンターに入れる、そのためにスペースを確保する必要はないということか。
- ・「十分なスペース」というような書き方ではなく、「リサイクルセンターの機能をどう活用し、運営していくかは、新たなエコセンター構想とともに考えていく必要があります」というような表現にするのはどうか。

◆高口副会長

- ・例えば「リサイクルセンター等の既存施設との連携においては」という書き出しにするのはどうか。

◆崎田会長

- ・「リサイクルセンター等の既存施設との連携や機能の移転に関しては、新たなエコセンターの機能を考える際、現在の運営者等と十分に意見交換しつつ、柔軟に考える必要がある。」とするのがいいか。

◆高口副会長

- ・その上の「ZEB モデル施設としての機能については…」という文章だが、言葉の重複があるので、「ZEB モデル施設としての機能については、中小規模のモデルである必要がある」や「モデルであることに留意が必要である」のどちらかでよいのでは。

◆崎田会長

- ・「(2) 施設整備のタイプ」のところでは、まずしっかりエコセンターを整備することを先に書いた方がよいのではないか。複合施設との連携を重視しているように見えてしまう。
- ・まずは単独で建てることを優先するけれども、連携することで相乗効果が期待できるような状況があれば、そういったチャンスもきちんとつかんでほしい。

◇事務局（夏目環境政策課長）

- ・最後の2行は、効果の高い複合相手を選択していくという趣旨だが、ネガティブな表現になってしまっているので、前向きな表現に修正させていただきたい。しかし、前回「ついで感」という意見があったが、エコセンターの設置効果を最大化していくためには、複合機能やついで感についての検討が必要だと感じている。

◆高口副会長

- ・「(4) 整備手法・運営手法」の最後の2行、ZEBの話については、(1) エコセンターの具体的な機能でも入っているので、ここでは不要ではないか。
- ・整備と運営は分けるのではなく、一体的にやった方がいいのではないかという意見が出ていたと思う。先ほど25ページの民間連携のところでも、途切れ途切れの印象を受けるという話

をしたが、設計・施工を含めて連続して考えた方がよい。

- ・2行目「その中で、施設を利用する区民やノウハウを持った民間事業者…」とあるが、「施設を運用する主体や利用する区民・団体・事業者と連携して、検討していく必要があります」とするのがよいか。

その他

◇事務局（夏目環境政策課長）

- ・本日まで発言できなかったご意見については、お配りしているご意見用紙にて、今週中にお寄せいただきたい。

◆崎田会長

- ・今後の流れについて、本日皆さんからいただいたご意見、今週中にいただく追加意見を事務局で反映していただき、まずは正副会長に見せていただく。その後、検討会としての最終案ができた段階で、委員の皆さんにお送りするという流れでよいか。

◆その他委員

- ・よい。

◇事務局（夏目環境政策課長）

- ・今後の進め方だが、検討会としての基本構想の最終案をいただいたのち、区としての正式な基本構想として決定するまでには、若干のお時間をいただくことになろうかと思う。ご了承いただきたい。
- ・長時間にわたり、活発なご議論をいただいたことに感謝いたしたい。

[閉会]